

子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomonono-mori.net> mailtp:info@kodomonono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2024年8月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもちたい方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



厳しい残暑の中にも、朝晩にかすかな秋の気配が感じられるようになりましたが
皆様、お元気にお過ごしでしょうか。

今月号では、子どもに沿った、子ども主体の自然体験活動の確立を目指す
夏の自然体験活動のレポートをお送りします。

ハードルの高いミッションですが、とても重要なテーマですので継続的に取り組みたいと思います。

(写真：千葉県「今井保育園」のどんぐりの苗木)

(目次)

1. ～新しい自然体験活動の確立を目指して～
岐阜県「浄心こどもの城」自然体験講座レポート
2. JP子どもの森づくり運動参加園活動レポート
3. リレーエッセイ (2024年8月号)
4. 事務局からのお知らせ

日本郵政グループからのお知らせ

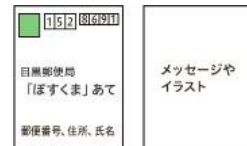
日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援
のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】

JP 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. ～新しい自然体験活動の確立を目指して～岐阜県「浄心こどもの城」自然体験講座レポート

岐阜県の会員園、認定こども園「浄心こどもの城」において、“子どもに沿った、子ども主体の自然体験活動を学ぶ”自然体験講座が開催されました。講師は、「森と人との共生」を目指す森林環境活動の聖地である岐阜県立森林文化アカデミー教授の萩原・ナバ・裕作教授です。同氏は、子どもたちの自然体験活動において、いまやカリスマ的講師として、様々な活動や情報発信を実践されておられます。JP子どもの森づくり運動としても、かねてから連携をお願いしておりましたが念願かなって実現しました。

[開催概要]

- 1) 開催日：2024年7月3日(水) 9:30～15:00
- 2) 場所：岐阜県郡上市「浄願寺」竹林
- 3) 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 4) 共催：認定こども園「浄心こどもの城」
- 5) 講師：岐阜県立森林文化アカデミー 教授 萩原・ナバ・裕作氏
- 6) 参加者：「浄心こどもの城」年長児30名、保育者10名、及び、「大野幼稚園」、「崇徳保育園」保育者

今回の講座のテーマである“子どもに沿った、子ども主体の自然体験活動”は、子どもの、特に幼児期の自然体験プログラムにおいて常に問われているテーマです。とすると主催者（大人）の都合で運営されがちな活動を、どうしたら本当に子どもたちに届けられるかが問われているのです。



キーワードは“自然遊び”でしょうか。幼い子どもたちは、自然の中で何かを得るために「体験」するのではなく「活動」するのではなくただ楽しいから夢中で「遊び」、その過程の中で文字どおり**自然**に子ども本来の豊かな資質を育てくれます。重要なことは、活動の運営者がどのように子どもの主体性を担保できるかです。

ナバ教授は、「自由な遊び＆自由な学び」をテーマに、子ども主体の自然・環境体験活動について様々な実践と情報発信を継続されています。今回も、お寺の普通の竹林が、ナバマジックで子どもの豊かな自然遊びのフィールドに変化していきました。参加した保育者からは、「**園児を遊ばせようとするのではなく、遊びを助長することが大切だと実感した**」という感想がありました。



「子ども主体の自然体験活動」は、今もっとも保育・幼児教育において重要なテーマです。簡単に答えが出るテーマではありませんが、JP子どもの森づくり運動では、これからも既存のプログラムに捕らわれない、新しい子ども主体の自然体験活動の確立を目指してまいります。（レポートの詳細は、ホームページをご覧ください。）

2. JP子どもの森づくり運動参加園活動レポート

1) 千葉県「今井保育園」東北復興グリーンウェイブ東北の苗木を見送る活動

- ・日 時：2024年5月13日(月) ・会 場：自園 ・参加園児：年長児23名
- ・日本郵政グループ参加者：千葉中央郵便局 局長 永石 靖博さん、及び「ポスクま」
- * 今回見送るどんぐりの苗木は、みんなで2年間育てたものです。あいにくの雨でしたが、ポスクま君がやって来て園児たちは大喜びでした。(園レポート) ※活動の詳細はホームページをご覧ください。



2) 大阪府「木の実こども創造館」東北復興グリーンウェイブ東北の苗木を見送る会レポート

- ・日 時：2024年5月15日(月)10:30~11:30 ・会 場：自園 ・参加者：園児42名(4, 5歳児)
- ・日本郵政グループ：布施郵便局 総務部 部長 駒井 知貴さん、同郵便営業専担主任 中村 良輔さん
- * 当日は、まず園長先生からどんぐりの苗木をどこに届けるのか等、活動についての説明があり、その後、布施郵便局の駒井さんから「苗木を大切に届けます」とのごあいさつをいただきました。最後にみんなで郵便車を見送りました。



3. リレーエッセイ (2024年8月号)

認定 NPO 法人森のECHICA 代表理事 であり、認定こども園 花の森こども園 園長の葭田 昭子 (よしだ あきこ) さんによるリレーエッセイの第2回目です。今回も、とても刺激的な内容ですので、是非、お読みください。

非認知能力という青い鳥 2

認定 NPO 法人森の ECHICA 代表理事 葭田 昭子



非認知能力と非地位財と呼ばれる幸福度には相関関係があるという。非認知能力は、みんながこぞって探す幸せの青い鳥なのだ。

森や川におじゃました子どもたちを観ていると、日々遊びに没頭していくようになる。このわくわくする遊びを花の森では「自らに由る遊び」という。

子どもは仲間とひとつになって「嘘っこ」の世界で何にでも成れる。筋書きは子どもの意のまま、池井戸潤や宮藤勘九郎も思いつかないような筋書きが展開し、時にお父さん役は、車がないので蛇になってクネクネ地面をはって出勤して行く。

ヒナ鳥は青大将に吞まれることもある。親鳥のけなげな子育てと悲しみに共感しつつ、青大将の空腹にも共感する。子どもは大地に身体を預け、溶け込んで空を見上げてトリップし、川の浅瀬に浸り、川にもなる。



そんな「自らに由る遊び」を完遂したこどもたちは、非常に満足し自信に満ちている。つまり幸せなのである。

自然界は、常に変容し続け、留まる様態はない。

ある日、子どもは、地面から湧いたゲジゲジのダンスに出会う。「ワンツー、ワンツー」とゲジゲジの腰ふりと一緒に歌いゲジゲジとコラボする。ショーは終わり、ゲジゲジは地面の中に消え、ふと我に返る。虫網で捕まらないタマムシやナナフシが肩先に留まったりするとその生命と通じ合えたような気持になる。カナブンの樹液の取りっこにアフレコする。雨の後はどつてどつてこと、いろんなきのこが顔をだす。大きな桑の葉裏はセミの羽化とカタツムリの避暑に人気だ。森は遊びと発見の宝庫で「自らに由る遊び」は自分の高揚した思いつきをなんでも試すことができる。他者の生命を貶めない限り。

「思い通りにならない経験」「純粹経験」は人間以外の生命観に触れることで起こる。そして非認知能力は、退屈を知らない「自らに由る遊び」と相性がいい。 つづく

※執筆者紹介

認定 NPO 法人森の ECHICA 代表理事 葭田昭子 (よしだ あきこ)

保育士として 4 年間埼玉県に奉職したあと、ゼロから創る人になりたくて陶芸の弟子となる。陶芸家として16年。3男の母。2008年息子の幼稚園が早期教育に転換することを機に仲間と自主保育のようちえん「花の森こども園」を立ち上げる。2021年地方裁量型認定こども園となり、同園園長。著書に「ようちえんはじめました！」(新評論)



<http://www.hananomori.org>

4. 事務局からのお知らせ

子森ネット後援事業「国際校庭園庭連合日本支部 5周年記念セミナー」のご案内 ※詳細 ⇒

